

スマートフォンの価格に関する  
マーケティングデータ  
～現状編～

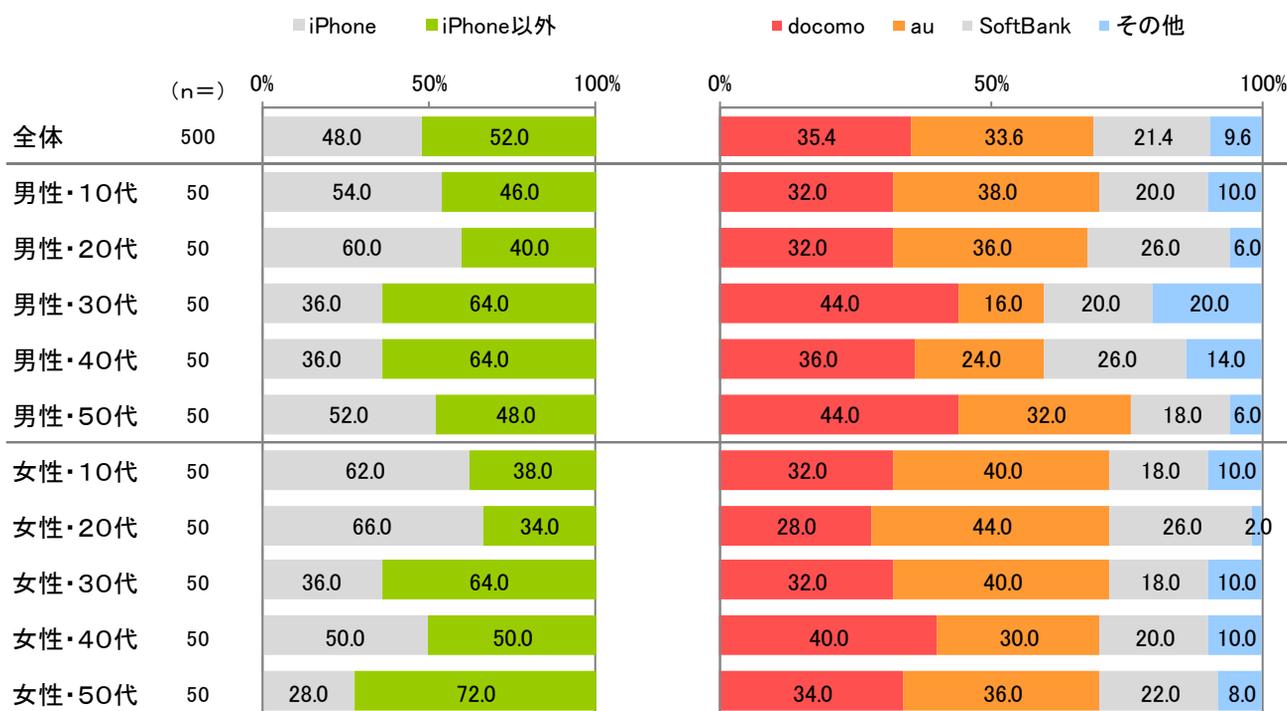
朝日大学マーケティング研究所

# 調査概要

- 調査方法 Webアンケート
- 調査期間 2015年10月30日(金)～11月6日(金)
- 調査対象 首都圏在住の13歳～59歳男女で、かつ、スマートフォンを利用している人
- 有効回答 合計500名(均等割付)

年代	男性	女性
13～19歳	50名	50名
20～29歳	50名	50名
30～39歳	50名	50名
40～49歳	50名	50名
50～59歳	50名	50名
合計	250名	250名

## 利用しているスマートフォンの機種(iPhoneとそれ以外の2区分)、通信会社

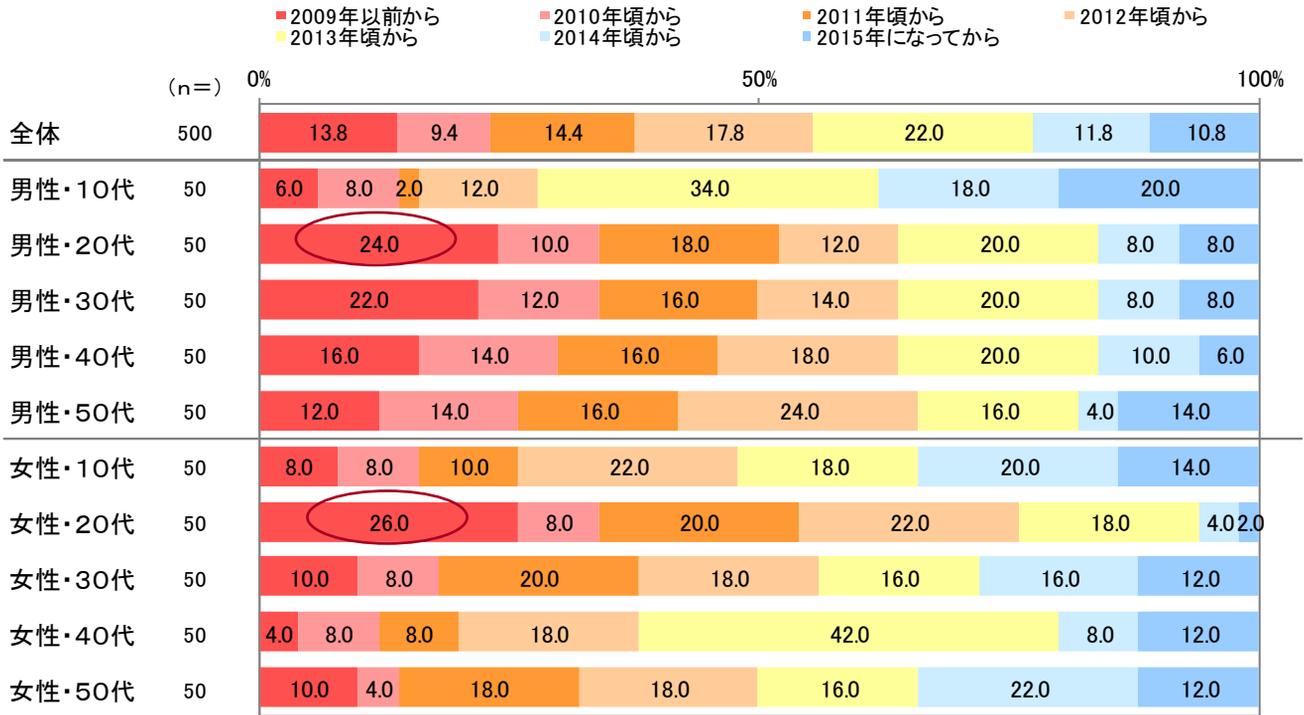


# 1. スマートフォンの利用開始時期と、買い換え・機種変更の回数

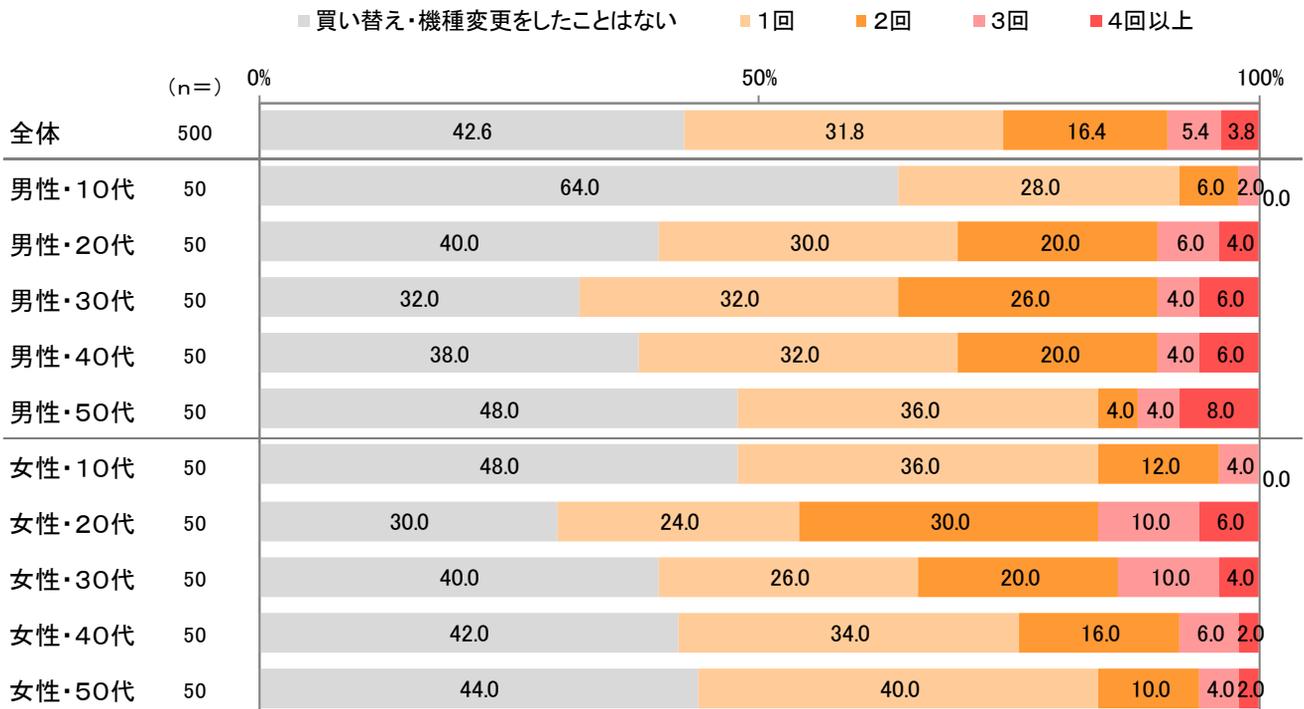
スマートフォンにしてから、一度も買い換え・機種変更をしていない人は、全体の42.6%。

- 13歳～59歳のスマートフォンユーザーに、スマートフォンの利用を始めた時期を訊いたところ、全体では「2013年頃から(22.0%)」が最も多く、次いで「2012年頃から(17.8%)」が多かった。この時期にスマートフォンを持った人が多い。
- 性・年代別にみると、「2009年以前から」利用を始めていた人は、男女とも20代が最も多い。学生時代に初めて持った携帯電話がスマートフォンだった人たちが多かったと推測できる。
- スマートフォンの利用を始めてから何回買い換え・機種変更を行ったかを訊くと、全体の42.6%が「買い換え・機種変更をしたことはない」と回答した。買い換え・機種変更の経験が豊富なユーザーは限られているといえる。

## スマートフォンの利用を始めた時期



## スマートフォンの利用を始めてから、何回買い換え・機種変更を行ったか

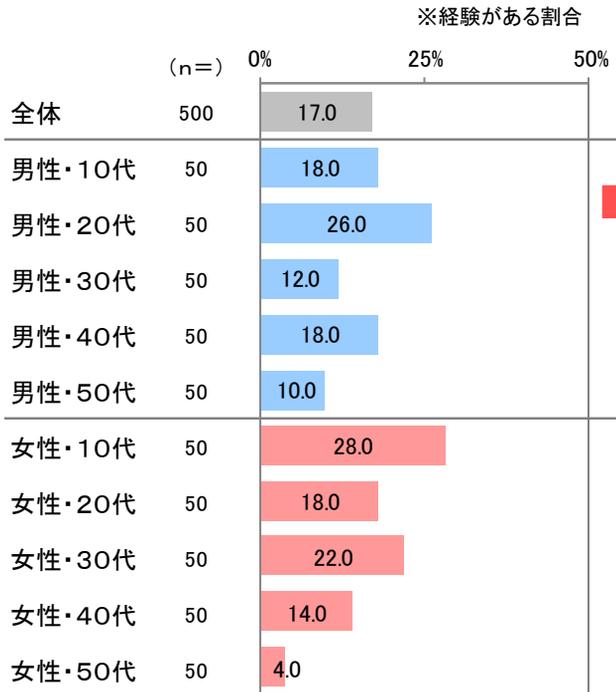


## 2. 画面割れ(ひび)経験と、その後の対応

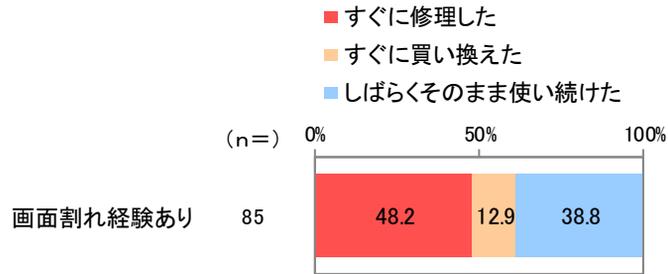
スマートフォンの画面割れ(ひび)経験がある人は全体の17.0%、経験者のうち38.8%は、割れたまま、しばらく使い続けた。

- スマートフォンの画面が割れたり、ひびが入った経験がある人は、全体の17.0%である。概ね、若い世代のほうが経験率が高い。
- 画面割れ経験者のうち、すぐに修理した人は48.2%で、修理代金の平均は7,600円だった。
- 画面割れ経験者のうち、38.8%は「しばらくそのまま使い続けた」と回答した。
- 「しばらくそのまま使い続けた」理由として、最も多かったのは「まだ使える」というものであった。また、他の理由として「修理する時間がない」「修理代金が高い」「修理が面倒」「機種変更時期(2年)まで待つ」というものもあがった。

### スマートフォンの画面が割れたり、ひびが入った経験



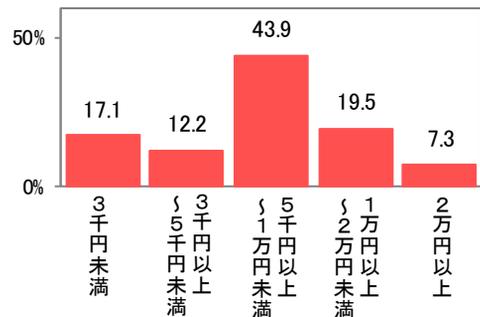
### 画面割れ(ひび)後の対応



すぐに修理した

### 修理代金

平均 7,600円 (n=41)



しばらくそのまま使い続けた

### 画面割れ(ひび)後、しばらくそのまま使い続けた理由(自由回答、抜粋)

#### 【まだ使えるから】・・・12件

- ・画面が見えないこともないから(男性29歳)
- ・まわりもそういう人がいる。みづらいが使える(女性15歳)

#### 【修理する時間がない】・・・6件

- ・修理に行くひまがない(男性53歳)
- ・修理に出す時間が無かった(女性27歳)

#### 【修理代金が高い】・・・5件

- ・修理費用が高額で自分でやるため部材調達に時間がかかる(男性51歳)
- ・修理代が高いので我慢した。(女性43歳)

#### 【修理が面倒】・・・4件

- ・修理するのが面倒(男性45歳)
- ・修理が面倒だから(女性23歳)

#### 【機種変更時期(2年)まで待つ】・・・4件

- ・すぐ後に機種変の時期が控えていたため(男性36歳)
- ・まだ2年経っていなかったから、2年経つまで待つから機種変更をした。(女性18歳)

#### 【その他】・・・2件

- ・親が直す必要ない、そのまま使えと言った(男性15歳)

(n=33)

### 3. スマートフォンの端末購入方法、月額利用料と端末代金

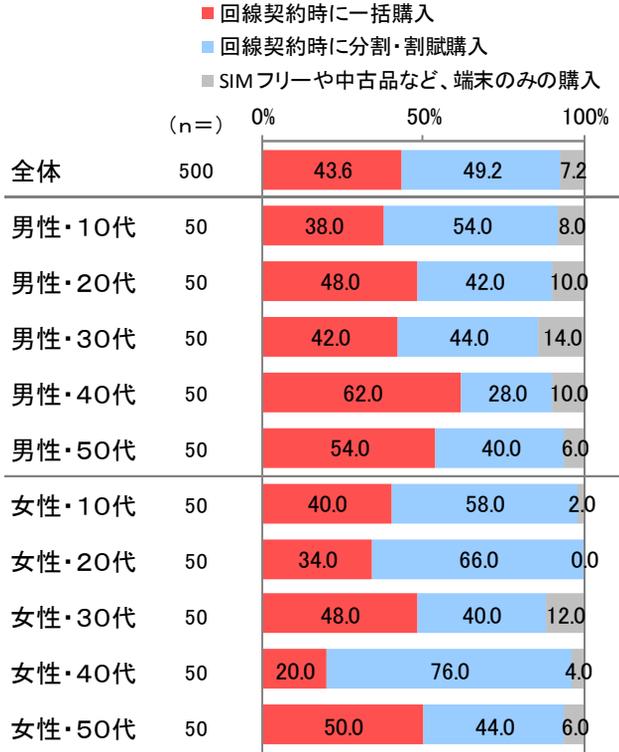
スマートフォンの月額利用料の全体平均は6,956円、「3大キャリア」以外のユーザーに限ると2,551円。

■スマートフォンの端末の購入方法を訊くと、「回線契約時に一括購入」が全体の43.6%、「回線契約時に分割・割賦購入」が49.2%、「SIMフリーや中古品など、端末のみの購入」が7.2%であった。

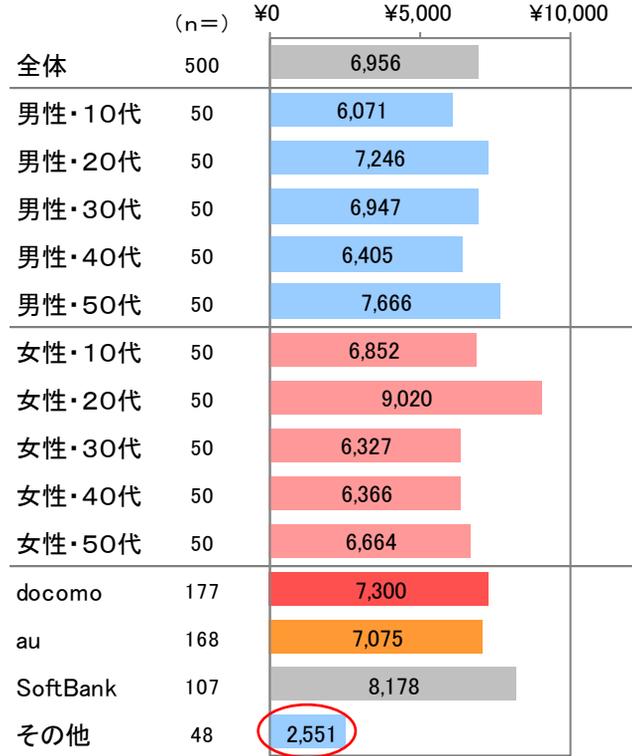
■スマートフォンの月額利用料は、全体で平均6,956円であった。通信会社別にみると、いわゆる「3大キャリア」以外の「その他」が2,551円と顕著に低い。

■割引を考慮した端末代金(分割・割賦購入の場合は、毎月の支払いの合計金額)を訊いたところ、「0円」の割合が全体の22.4%に上った。0円を除いた平均金額は全体で42,758円となった。この金額の正確性について、27.2%は「かなりあいまいな金額」と答えた。男性に比べ、女性のほうが自分の端末の金額に自信がないようである。

#### スマートフォンの端末購入方法

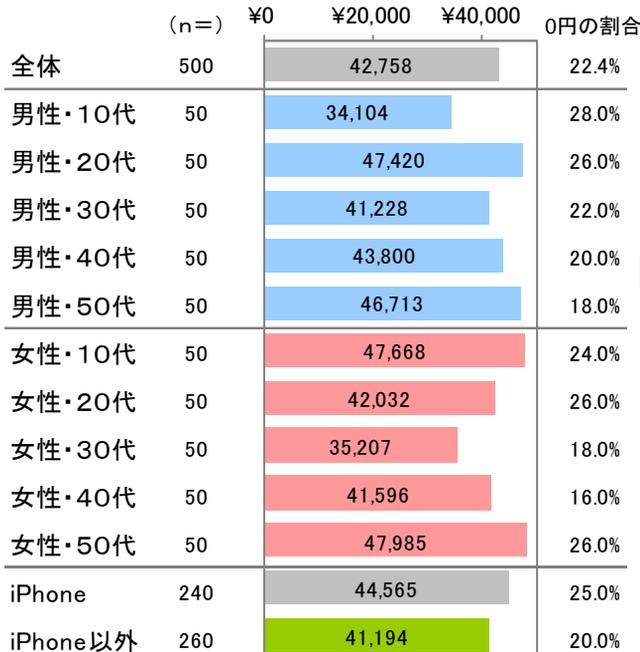


#### スマートフォンの月額利用料(請求金額)



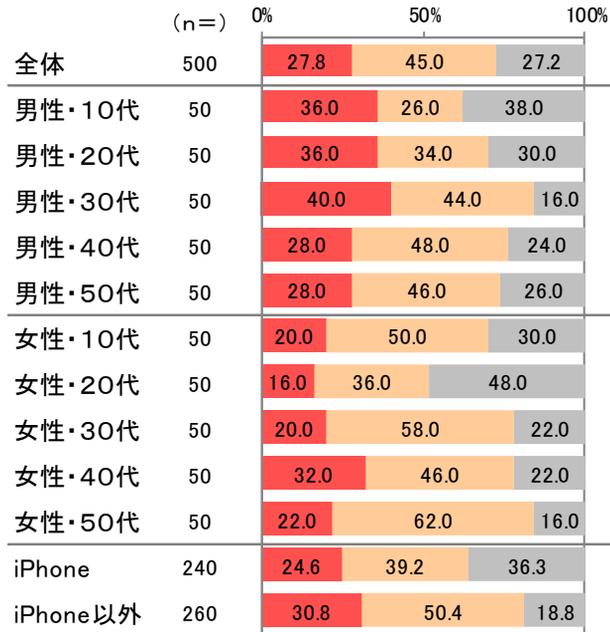
#### 割引などを考慮した、最終的に支払う端末代金

※分割・割賦購入の場合は、毎月の支払いの合計金額  
※グラフ中の金額は「0円」を除いた平均



#### 端末代金として回答した金額の正確性

■ ほぼこの金額で間違いない  
■ だいたいこの金額という程度  
■ かなりあいまいな金額



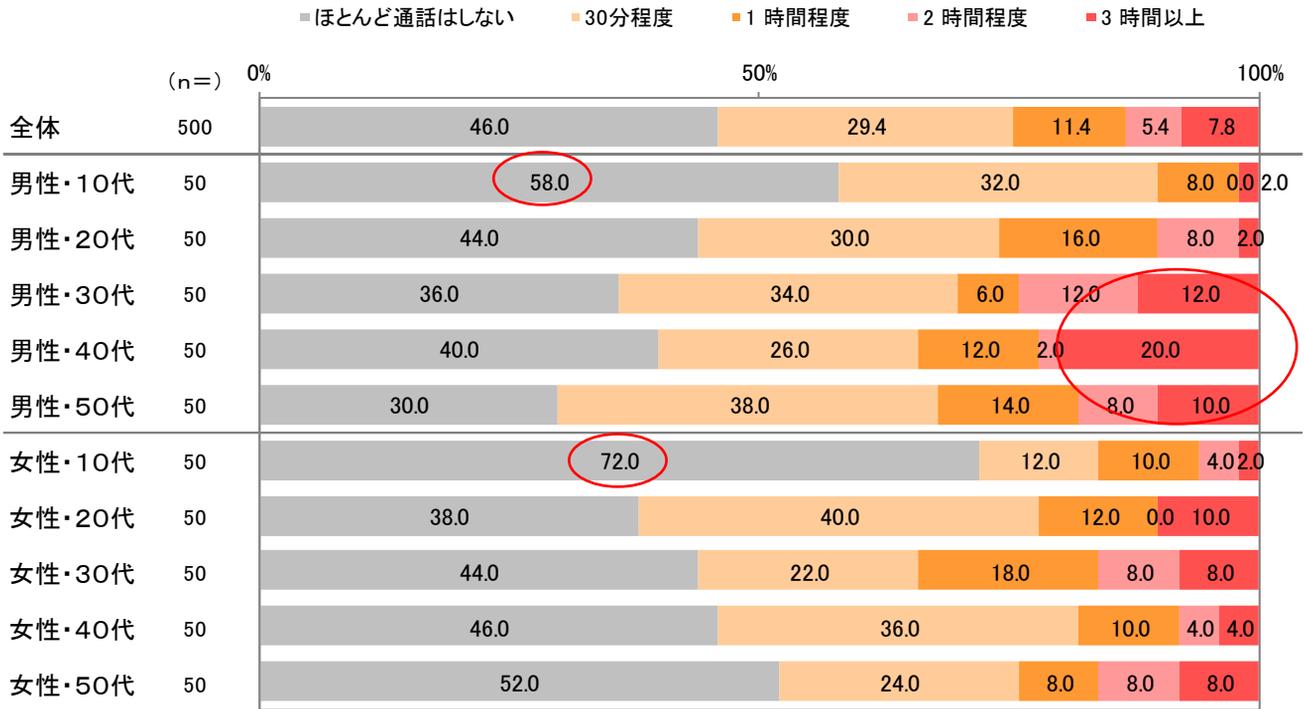
回答の正確性

#### 4. 通話時間、データ通信量の把握度合い

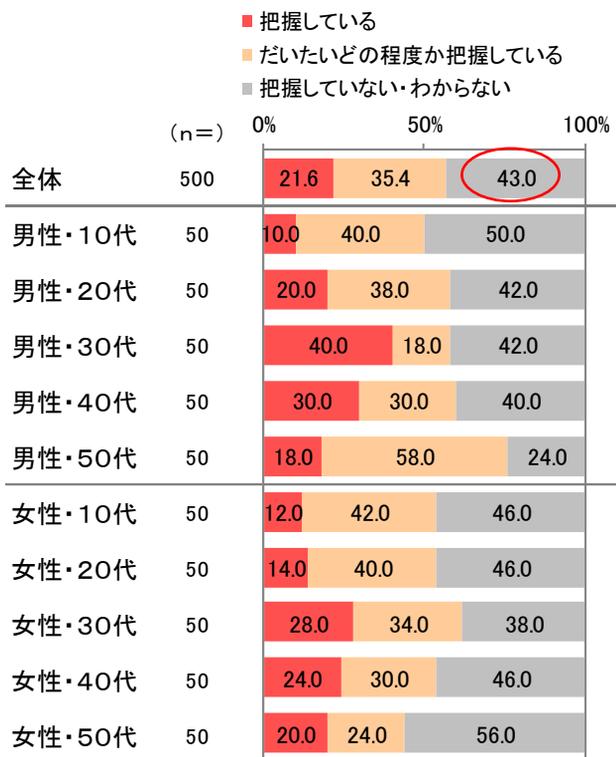
毎月のデータ通信量を「把握していない・わからない」ユーザが全体の43.0%。

- スマートフォンの1ヶ月あたりの通話時間(無料通話アプリ利用を除く)を訊くと、全体の46.0%が「ほとんど通話はしない」と答えた。
- 性・年代別では、10代男女の「ほとんど通話はしない」が目立つ。この世代はほぼ無料通話アプリの利用が中心と推測される。また、男性の40代を中心に「3時間以上」の頻繁な利用が見られる。これは仕事での利用が含まれていると考えられる。
- 1ヶ月あたりのデータ通信量を把握しているかどうかでは、全体の43.0%が「把握していない・わからない」と回答した。
- データ通信量超過による通信速度制限の経験の有無を訊くと、全体の32.4%が「経験がある」と回答した。男性は、10代が52.0%と突出して高い。女性は、20代の44.0%をピークに、年代があがるほど経験率は下がり、50代では12.0%となる。

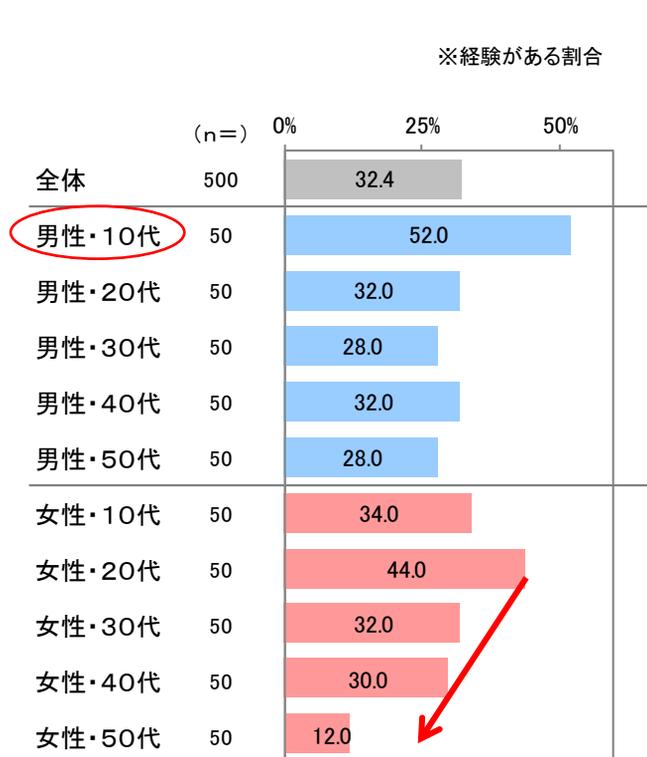
スマートフォンの1ヶ月あたりの通話時間(無料通話アプリ利用を除く)



1ヶ月あたりのデータ通信量をどの程度把握しているか

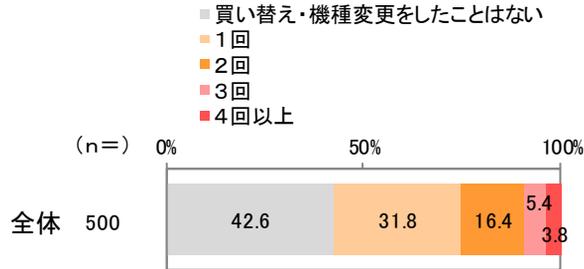


データ通信量超過による通信速度制限の経験



**結果① スマートフォンにしてから、一度も買い換え・機種変更を経験していないユーザーが42.6%**

スマートフォンの利用を始めてから、何回買い換え・機種変更を行ったか

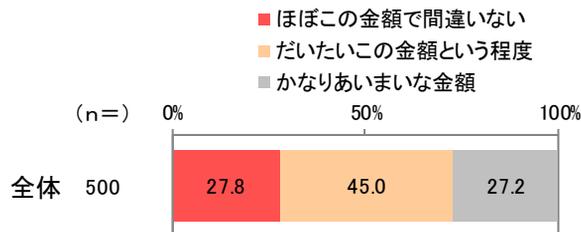


現在のスマートフォンユーザーは、比較的早くから利用していた20代男女・30代男性を除けば、2012年～2013年にかけて利用を始めた人が多い。

スマートフォンの普及は大きく進んだが、スマートフォンにしてから、一度も買い換え・機種変更を経験していないユーザーは42.6%おり、まだ日が浅いということがいえる。

**結果② 端末代金がいまいちなユーザーは少ない**

端末代金として回答した金額の正確性

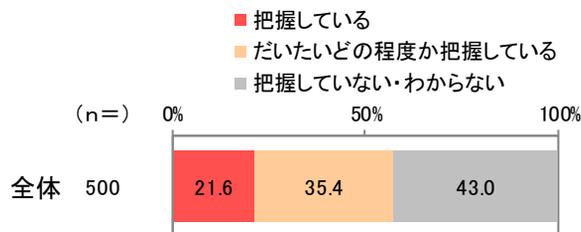


端末代金(分割・割賦購入の場合は、毎月の支払いの合計)は、割引制度や分割・割賦購入によって、わかりにくくなっており、端末代金について、「ほぼこの金額で間違いない」と自信を持って回答したユーザーは27.8%に過ぎなかった。

スマートフォンの月額利用料は、概ね7,000円程度だったが、いわゆる「3大キャリア」以外の通信会社のユーザーに限れば、平均2,551円であり、大きな差が確認された。

**結果③ データ通信量を把握していないユーザーが43.0%**

1ヶ月あたりのデータ通信量をどの程度把握しているか



毎月のデータ通信量を「把握していない・わからない」と回答したユーザーは、全体の43.0%であった。また、データ通信量超過による通信速度制限を受けたことのあるユーザーは全体の32.4%であり、女性の50代に限れば12.0%と少ない。

一方で、通話(無料通話アプリの利用を除く)に関しては、全体の46.0%は、「ほとんど通話はしない」と回答した。

**結果から推測される仮説**

■スマートフォンが普及してから数年経った。データ通信量の定額プランが当たり前となり、月額利用料が上がったことから、政府から「携帯料金などの家計負担の軽減が課題」という意見が出され、話題となっている。本調査の結果から、スマートフォンの利用を始めてから、まだ一度も買い換え・機種変更を経験していないユーザーが多数おり、端末代金がいくらなのかの認識がいまいであったり、毎月のデータ通信量を把握していなかったりなど、ユーザー側が「賢い消費者」になれていないことがわかる。また、通話をほとんど利用していないユーザーや、データ通信量超過による通信速度制限を受けたことのないユーザーも多い。すなわち、自分の利用状況よりも割高なサービスを受けているユーザーが多いというのが、日本のスマートフォン市場の現状といえる。

■「3大キャリア」以外の通信事業者ユーザーの平均月額利用料は2,551円であり、7,000円以上する「3大キャリア」ユーザーとの差は非常に大きい。しかし、安価なサービスへの移行は期待されていたほど進んでいない。その理由として、上記で述べたユーザー側の経験値の低さがあげられる。今後、通信事業者には、消費者にわかりやすい、安心して使えるサービスの提供が望まれる。「通話料・データ通信料・端末代込みで月2,980円」というサービスが出ているが、ユーザーの状況に合わせた販売戦略といえる。

## トピックスリサーチ

スマートフォンの価格に関する  
マーケティングデータ  
～現状編～

---

発行日 2015年 11月 24日

---

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所  
〒501-0296  
岐阜県瑞穂市穂積1851  
TEL : 058-326-1173

---

お問い合わせ [marketing@alice.asahi-u.ac.jp](mailto:marketing@alice.asahi-u.ac.jp)